

明治十八年

沖繩縣久米島久場
島、釣島、國標建設
件

魚釣島久場島及久連島等々地視察、
 ナリキニテ、
 船中雲丸ニ乗但定長石橋入表諸
 島江ナセリ下ニ急見付、
 十普勝久留新八郎都神氏
 直敏内用此幕白千次巡查伊年祐一日柳田強一印ト
 共ニ由港ヲ依ラ該視察ニ便ル相模鰺取ノ母海ス
 幸福臨

十日たれ、午後五時、入春、島根、浮港、抜錨、計、船、心、を、
 左、航、し、翌、三、十、日、午、前、四、時、迄、東、雲、棚、川、テ、旭、未、タ、セ、テ、船、
 室、ハ、當、上、白、三、福、ヤ、シ、レ、漆、波、ハ、殊、月、ノ、當、ナ、キ、明、光、シ、枚、ツ、海、
 中、船、ノ、面、數、枚、星、一、際、ミ、お、テ、屹、焉、ト、テ、鱗、々、モ、ナ、リ、是、則、
 チ、望、的、島、ナ、リ、日、ハ、付、端、艇、ニ、乗、シ、其、要、有、上、座、シ、テ、因、由、

乃内部ツ踏査セシト收スニ此等ノ岨段ナルハテ容易ニ知ルヘイ
然レテ沿岸ニ巨巖大石散在スリ且海ノ潮水ノ常能
ニ侵ルヘルアリテ亦自由ナラス故ニ其南西ノ海濱ヲ踏査
シテ全貌ヲ知スニ此等岨段ノ田圃ニ起リミヤヲ起スルニ而テ
内部ハ巨大ノ岩ナキ成テ漏田トコトテ指ス阿比ノ橋ノ跡等
大ニ岨ノ山ノ沖微々此ノ田圃ノ龍草木ニテ散シ間ニ此等
ヨリは水流ルニ其重多カク^平原ナラスニテ耕也之ニ適也
水陸ニ宜シラ認ルニ此等岨ノ地勢大ニ相ノ目ノ荒蕪地
東部ツ望ミ便ナラス然レ其土石ノ家ニテ惜ヤ入テ
岨中ノ龍草ノ根ニテ根ニテ石ノ隙大ニツ見ルニ
休ル者之ニ或ハ煤炭又鉄礦ツ包蔵セシニテタカ
ルニ果シテ之ニ^ニおツク^ニ煤炭^ニ重^ニノ^ニ龍草^ニ言ハス^ニカス^ニ少
知者トシテ踏査セシニ^ニ石^ニノ^ニ根^ニノ^ニ附シ^ニ地^ニノ^ニ列記ス

第一

是ニ^ニ岨^ニノ^ニ砂^ニノ^ニ土^ニ年^ニ、^ニ若^ニシ^ニキ^ニ層^ニヲ^ニ生^ニシ^ニタ^ニモ^ニ也

第二

是ニ^ニ淺^ニ澤^ニ狀^ニノ^ニ石^ニ層^ニ中^ニハ^ニ粘^ニ着^ニセ^ニタ^ニリ

第三

是ニ^ニ海^ニノ^ニ変^ニ性^ニセ^ニ巨^ニ大^ニノ^ニ石^ニ層^ニ中^ニハ^ニ粘^ニ着^ニセ^ニタ^ニリ

第四

是ニ^ニ石^ニ花^ニ石^ニナ^ニリ^ニ此^ニ等^ニニ^ニ海^ニ濱^ニニ^ニ多^ニシ^ニ粘^ニ着^ニアリ^ニ能^ニ体
色^ニ鮮^ニ明^ニナ^ニリ^ニ粘^ニ着^ニセ^ニタ^ニリ

第五

是ニ^ニ離^ニ石^ニナ^ニリ^ニ無^ニ論^ニ火^ニ山^ニ性^ニノ^ニモ^ニト^ニス^ニ然^ニレ^ニ他^ニノ^ニ漂^ニ石^ニ
セ^ニシ^ニモ^ニト^ニ知^ニル^ニ是^ニタ^ニ僅^ニ々^ニナ^ニリ

第六

是ハ能釘ナリ何時カ能釘ノ字ハ此ノ本村ハ既ナリ釘ノ
ニ雖ウ先キト見エテ能化ニシ海濱ノ岩石ニ凝結ス其
数甚多シ毎年恒ムニシ

後、明ハ本邦ニ渡来スルノ旨、教セラルベテ所謂日本支那
 海ノ航路ナリ、故ニモ各艦ハ漂着セリ、則チ小島ナリ、日
 船ニシテホノ島球ニト見セキ、此板帳橋ニホノ島ニ
 海綿淨土^{年ヲ知シタル}ナリ、昔是ヨリ、此年ニ移リ、目新ニ見セシ
 ハ長崎島ニ半許中、四大許ノ傳馬船ノ漂着セシモノナリ、形甚ダ
 奇ニシテ、是ヲセサモノナシ、之ヲ中雲丸、乗組人々、恠ミ曰ク、
 支那ノ通船ナリト云ヘリ

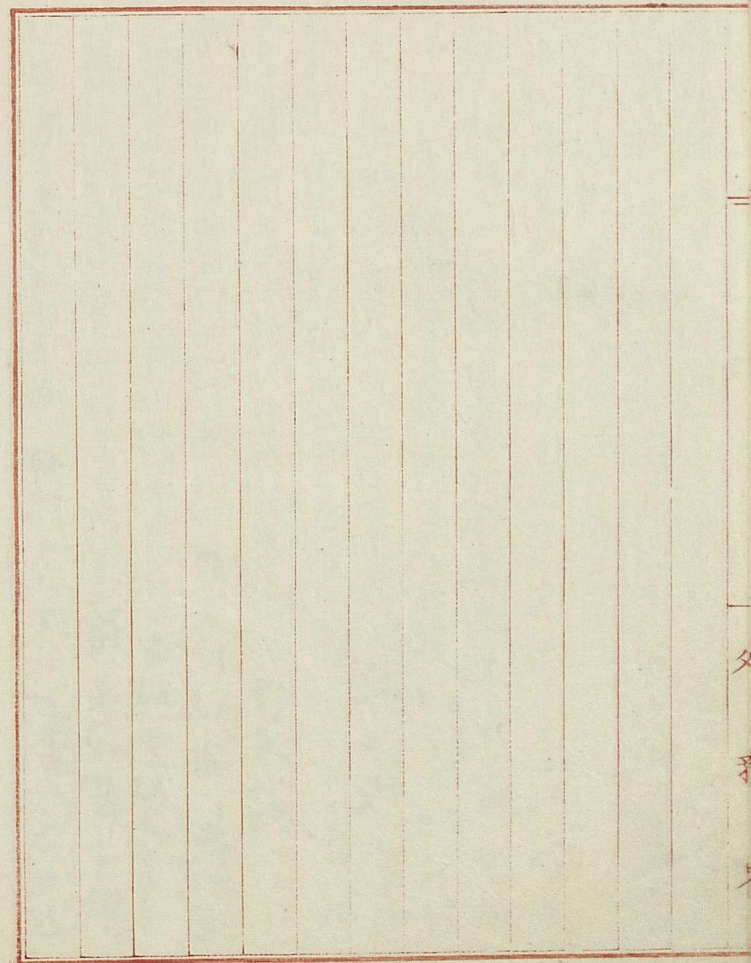
見ノ誤ナラシ

白河ノ噴霧と見れば何と云ふ地色ヲ見せ止、冠をある
 美對策ヲハテ義ス、而シテ皆汝ハ草葉シ集ナリ、集ト
 ナレハ印ヲ抱キ雄ハ之ヲ侮ハシ又食カカメ、此智和訓ア
 ホウナリ又トウクウ又バカナリ等ノ名アリ、素ヲ人臨ハ
 息トシテ官ヲ人ヲ恐シス、又友等苦ミ、語ヲ曰ク人ヲ恐サシハ
 宜ク生ヲ持トナス、此ト各光シ奉フヲ述ミ、又歌ヲ枕ニ大々
 歌易ナリ或ハ雨ニ機ニ或ハ翅ヲ結テ足ヲ伸スアリ或ハ
 七手ニ三羽ナキニ、羽ヲ機ニハテ招ミ、海鳥或ハ印ヲ松ノ
 吾目思々ニ生機或ハ機ニ枝ヲ敗格印ナ我ヲ忘テ、お
 ヤトモ哭ミ、我モスルナレハ、羽の時枝中羽數百印ヲ得、則
 チ機ノ部ニハ、高陽ノ處ニシテ、是ナリ、此智海會中最モ大
 ナモノシテ、量大凡松ノ内、外ノ噴霧アリ、肉ハ食料ニ
 通スト、今モ此機ニ因ミ、
 大イナナデア
 Deumida
 所ニシテ英語

聖廟

久增

多釣時，
南窗有十
上海里地
引遠望



父
弟
弟

魚釣島外二島巡視取調概略

魚釣島久場島及久米赤島実地視察ノ御内命ヲ奉シ去
十月二十二日本県雇汽船出雲丸ニ乗組宮古石垣入表諸
島ヲ経テ本月一日無着同行ノ十等属久留彦八警部補神尾
直敏御用掛藤田千次巡查伊東祐一同柳田弥一郎ト
共ニ帰港セリ依テ該視察ニ係ル取調概略左ニ開陳ス

魚釣島

十月二十九日午後第四時入表島船浮港拔錨針ヲ西北ニ取り
進航シ翌三十日午前四時過東雲棚引テ旭未タ出デズ船
室ハ尚黑白ヲ弁セサレトモ涛波ハ残月ノ為メニ明光ヲ放ツノ際
本船ノ前面数海里ノ隔ニ於テ屹焉トシテ聳タルモノアリ是則
チ魚釣島ナリ同八時端艇ニ乗シ其西岸ニ上陸シテ周圍
及内部ヲ踏査セント欲スレトモ頗ル峻阪ナルヲ以テ容易ニ登ルコト
能ハス沿岸ハ又巨巖大石縦横ニアリ且ツ往々潮水ノ崑崙
ニ注ギ入ルアリテ歩行自由ナラス故ニ漸ク其南西ノ海浜ヲ跋涉
シテ全島ヲ相スルニ此島嶼ノ周圍ハ恐ク三里ヲ越ヘサルヘシ而シテ
内部ハ巨大ノ岩石ヨリ成立満面「コバ」樹、阿旦、榕、藤等
大東島ノ如ク沖縄本島ト同種ノ雜草木ヲ以テ蔽レ間ニ溪間
ヨリ清水流ルレトモ其量多カラス平原ナキヲ以テ耕地ニ乏シ海
水族ニ富ムヲ認ムレトモ前頭ノ地勢ナルガ故ニ目下農業漁ノ
両業ヲ営ムニ便ナラス然レドモ其土石ヲ察スルニ稍ヤ入表群
島中内離島ノ組織ニ類シテ只石層ノ大ナルヲ覺フルノミ
依是考之ハ或ハ煤炭又鉄鉍ヲ包含セシモノニアラザル乎
若シ果シテ之アルニ於テハ誠ニ貴重ノ島嶼ト言ハサルヘカラス御
参考トシテ携帯セシ二三ノ石類ニ説明ヲ附シ左ニ列記ス

第一

是ハ赤砂状ノ土中ニ著シキ層ヲ生シタルモノ也

第二

是ハ渣沢状ノ石層中所々ニ粘着セルモノナリ

第三

是ハ沙ヨリ変性セシ巨大ノ石層中ニ粘着セルモノナリ

第四

是ハ石花石ナリ此類最モ海浜ニ多シ各種アリ就中

色鮮明ナルヲ撰ビシナリ

第五

是ハ輕石ナレハ無論火山性ノモノトス然レトモ此ハ他ヨリ漂着
セシモノト察セラル数甚タ僅々ナレハナリ

第六

是ハ舩釘ナリ何時カ舩舶ノ漂流シテ木材ハ既ニ朽チ釘ノ
ミ残リタルモノト見ヘ今ハ酸化シテ海浜ノ岩石ニ凝結ス其
数甚タ多シ亦怪ムヘシ

該島ハ本邦ト清國トノ間ニ散在セルヲ以テ所謂日本支那
海ノ航路ナリ故ニ今モ各種ノ漂流物アリ則チ小官等ノ目
撃セシ物ハ或ハ琉球舩ト覺シキ舩板帆檣或ハ竹木或ハ
海綿漁具（竹ニテ製シタル浮様ノモノヲ云フ）等是ナリ就中最モ目新シク感シタル
ハ長二間半許巾四尺許ノ伝馬舩ノ漂着セシモノナリ形甚タ
奇ニシテ曾テ見聞セサルモノナレハ之ヲ出雲丸乗組人ニ問フニ曰ク
支那ノ通船ナリト答ヘリ

島地素ヨリ人跡無之樹木ハ前陳ノ如ク繁茂ナレトモ大木ハ更
ニナシ野禽ニハ鴉、鷹、（白露ノ候ナレハ本島ト同シク渡リタルモノト見）鶯、鶇、鶇、目白、鳩等ニ
シテ海禽ノ最モ多キハ信天翁トス此鳥魚釣島ノ西南浜少ク
白砂ヲ吹寄タル溪間ニ至ルノ間地色ヲ見サル迄ニ群集ス
実ニ数万ヲ以テ算スヘク而シテ皆沙或ハ草葉ヲ集メテ巢ト
ナシ雌ハ卵ヲ抱キ雄ハ之ヲ保護シ又養フカ如シ此鳥和訓ア
ホウドリ又トウクロウ又バカドリ等ノ名アリ素ヨリ無人島ニ棲
息セルヲ以テ曾テ人ヲ恐レス小官等共ニ語テ曰ク人ヲ恐レサレハ
宜ク生捕トナスヘシト各先ヲ争フテ進ミ其頸ヲ握ル太々
容易ナリ或ハ両手ニ攫ミ或ハ翅ヲ結テ足ヲ縛スルアリ或ハ
右手ニ三羽左手ニ二羽ヲ攫テ以テ掲々得色或ハ卵ヲ拾フ等
各自思々ニ生捕或ハ撲殺射殺拾卵等我ヲ忘レテ為

セトモ更ニ飛去スルコトナケレハ暫時数十羽数百卵ヲ得タリ則
チ携帯シ以テ高覽ニ供セシモノ是ナリ此鳥海禽中最モ大
ナルモノニシテ最大凡拾斤ニ内外ス嗅氣アレトモ肉ハ食料ニ

適スト云フ今書ニ就キ調フルニ ダイヨメデア *Diomedea* 属ニシテ英語

ノ アルバトロス *Albatross* ト称スルモノナルベシ蝙蝠ノ大ナル者ハ大東島等
ニ均シク棲息スト想像スレトモ獸類ハ別ニ居ラサルヘシ

此島ハ曩ニ大城永保ニ就ギ取調今実地踏査ノ上猶英国

出板ノ日本台湾間ノ海図ニ照ラスニ彼ノ ホアビンシユ *Hoa pin see* ナル

者ニ相当ル而シテ入表群島中外離島西端ヨリ八十三海里
トス故ニ台湾ノ東北端ヲ去ル大凡百海里余東沙島ヲ東ニ

去ル大凡二百十四海里余ナルヘシ其 シアユシユ *Sia u sia* ヲ以テ久

米赤島ニ当テタルハ全クノ誤ニテ久米赤島ハ ラレー ロック *Raleigh Rock* ニ

当リ一礁ナルノミ ビンナツクル *Pinnacle* ヲ以テ久場島ニ当タルモ亦誤ニテ「ピ
ンナツクル」ナル語ハ頂ト云フ義ニシテ魚釣群島中六礁ノ最モ

屹立セシヲ言フモノナリ依テ彼是其誤ヲ正サンニ魚釣島ハ ホ *ta*

アビンシユ *oa pin see* 久場島ハ シアユシユ *Sia u sia* 久米赤島ハ ラレー *Raleigh*

ロック *Rock* ナルヘシ

余ハ石垣島ヨリ鶏一番ヲ携帯シテ魚釣島ニ放チ以テ将来ノ
繁殖否ヲ試ム復他日ノ証ヲ残サント欲スルノミ

久場島 附久米赤島

同日午後二時魚釣島ヲ謝シ久場島ニ向テ進航暫クシテ其海
岸ニ接ス本島ハ魚釣島ノ東北十六海里ヲ隔テアリ先ツ上陸
踏査セント欲スレトモ惜ムラクハ日ハ西山ニ落ントシ時恰モ東北ノ風
ヲ起シ倍ス強大ナラントス素ヨリ港湾ハナシ風ヲ避クルコト能ハス
随テ端艇ヲ下スコトヲ得ス乍遺憾傍觀ニ止ム依テ先其形状ヲ
言ハンニ山ハ魚釣島ヨリ卑ケレトモ同シク巨巖大石ヨリ成立タル島
ニシテ禽類樹木モ異ナルコトナシト認メラルハナリ然レトモ少ク小ナルヲ
以テ周圍恐ラク二里ニ滿タサルヘシ是ヨリ帰路久米赤島ヲ見ン
コトヲ舩長ニ約シ進航セシニ風ハ愈ヨ強キヲ加ヘ夜ハ暗黒ニシ
テ終ニ瞭然見ルコト能ハサリシハ甚タ遺憾トス然レトモ久米赤
島ハ到底洋中ノ一礁ニ過サレハ農漁業等ヲ営ミ或ハ将来植
民等ヲ為スノ念ハナカルヘシ幸ニ自今後先島航海ノ途次穩
波ノ節実地ノ目撃ヲ期スルニアル耳

以上我沖縄近海ニシテ古來其在ヲ見認テ未タ航海ヲ為サ
ス他日植民スヘキヤ否ノ考案ヲ貯ヘ今日ニ及ヒシ島嶼ハ先般
踏査ヲ了セシ南北大東群島ト共ニ五トス故ニ遠略ノ御計
画ハ先ツ右ニテ一段落ニ似タリト雖トモ海軍水路局第十七号海
図ニ拠レハ宮古島ノ南方大凡二十海里ヲ隔テ、イキマ島ト称シ
長サ凡五海里巾二海里位ニシテ八重山ノ小浜島ニ近キモノヲ
載セテ曰「イビ」氏ハ此島ノ探索ニ力ヲ尽セシガ遂ニ見得サリシ

ト云フトアリ又英国出版ノ日本台湾間ノ海図ニモ イキマ Okima

ダブトフル (Doubtful) ト記シ以テ其有無疑ノ間ニ置ケリ而シテ今回

八重山島ニ到リ土人ノ言フ所ニ拠レハ往昔波照間島ノ一
村民拳テ其南方ノ一島嶼ニ移転セリト其有無判然セサレトモ今
ニ之ヲ南波照間島ト称シテ其子孫ノ連綿タル事ヲ信シテ疑
ハズト云フ以上ノ二島ハ他日御探求相成可然哉ニ奉存候
右今回御内命ニ拠リ魚釣島外二島実地踏査ノ概略並
ニ見取略図相添謹テ奉復命候頓首再拝

明治十八年十一月四日

沖縄県五等属石沢兵吾

沖縄県令西村捨三殿代理

沖縄県大書記官森長義殿

【略図】

魚釣島ノ南西岸十五海里ノ地ヨリ遠望ノ図

魚釣島

久場島